

ビフィズス菌 *Bifidobacterium longum* BB536 によるスギ花粉症改善効果：ヒト試験の結果から

○近藤しずき¹⁾、清水(肖) 金忠¹⁾、宮地一裕¹⁾、岩附慧二¹⁾、富樫秀生²⁾、榎本雅夫³⁾
(森永乳業(株)・食総研¹⁾、とがしクリニック²⁾、日赤和歌山医療センター・耳鼻咽喉科³⁾)

【目的】これまでに、ビフィズス菌 BB536 の抗アレルギー作用を検証するため、スギ花粉症ボランティアを対象に、2004 年には BB536 配合ヨーグルトまたはプラセボヨーグルト(1 日 100g×2 個摂取)、2005 年には BB536 含有菌末またはプラセボ粉末(1 日 2 包摂取)を摂取する試験を行い、自覚症状および血中マーカーの改善を認められた。そこで、2006 年では、BB536 配合ヨーグルトまたはプラセボヨーグルトを 1 日 1 個摂取する試験を実施した。

【方法】試験デザインは無作為割り付けによる二重盲検並行 2 群比較試験とした。公募による神奈川県近辺在住の花粉症の自覚症状を有する成人101名を対象に、2006 年 1 月 19 日から 4 月 22 日まで、BB536 配合ヨーグルト(n=50)またはプラセボヨーグルト(n=51)を 1 日 1 個(内容量 120g)摂取させた。摂取期間中は「鼻アレルギー診断ガイドライン 2005」に基づいて毎日の自覚症状や花粉症対策の調査を行い、摂取前後に採血を行った。

【結果および考察】2006 年のスギ花粉飛散は 2005 年と比べてかなり少なく、全被験者が試験参加を完遂した。花粉飛散期における各自覚症状の変動スコアの合計値を求め、群間比較を行った。プラセボヨーグルト摂取群と比較して、BB536 ヨーグルト摂取群ではくしゃみ、水性鼻汁、喉の症状スコアには群間差はなかったが、鼻閉や目の症状スコアが低値を示し、鼻の搔痒感スコアが有意に低下した。また、試験群、プラセボ群とも、摂取前後の血清総 IgE やスギ花粉特異的 IgE に顕著な変化は認められなかった。以上の結果から、BB536 入りヨーグルトを 1 日 1 個摂取した場合でも、ある程度の花粉症症状緩和作用が示唆された。